

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472601812	事業の開始年月日	H15年4月1日
		指定年月日	H15年4月1日
法人名	社会福祉法人 久寿会		
事業所名	グループホーム 中の郷		
所在地	(〒252-0135)		
	相模原市緑区大島1606-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員 定員計 ユニット数	名 名 27名 3ユニット
自己評価作成日	H26年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>毎日の生活を安心して過ごして頂ける様、また、楽しみ・張りのある生活を感じて頂けるよう御利用者一人一人に寄り添った支援を実施しています。散歩・外出・外食・毎日の買い物やボランティアによるオカリナ・習字・演芸 等で楽しんで頂いています。散歩途中の畑道ではお花を頂いたり地域の方とお話されたり、地域へ出て行き一般の方に混じり活動を行ったりとホーム内だけではなく地域の方と交流もされています。職員一同「その人なりの笑顔を大切に」を思いながら支援させて頂いております。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興協会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月28日	評価機関 評価決定日	平成27年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

事業所は、JR橋本駅南口からバスで約20分、バス停から平坦な道を徒歩で約5分、小学校の近くに位置し、畑や草地に囲まれた静かな環境にある。当事業所は、法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスが併設されている。隣接して内科、整形外科、脳神経外科、眼科の病院や介護老人保健施設がある。また、介護老人保健施設内には大沢地域包括支援センターも設置されている。建物の1、2階に3ユニットのグループホームがあり、1階にはデイサービスが併設されていて、ユニットの合同行事に使用している。災害時に法人の各事業所の協力を得ることが出来る。

事業所からは山々が見え、特に屋上は眺望がよく、四季折々の丹沢の山々や、相模川の花火見物や秋のお月見などに最適である。また、菜園が設置されて、季節の野菜や草花を育てて、時期のものを食卓に取り入れ楽しんでいる。

【理念に沿ったケアサービスの徹底】

理念「安心して暮らしつつげられる家作り」をもとに、利用者が「その人らしくのびのびと生きる」ことを大切に、職員は、利用者が我が家として暮らせるように見守ったり、寄り添って日々の生活をサポートしている。職員は、居間の掲示や飾りに気をつけ、雰囲気づくりに配慮しており、利用者との話し合いの機会を増やし、一緒に楽しみ家庭の雰囲気大切にしている。季節の行事を定期的に行い、家族が参加する機会も多い。職員の研修機会を増やし、各委員会を通じて各種研修を実施してレベルの向上に努めている。一方、管理者は、会議や面談を通じて、職員の意見や要望を聞いて対応しており、職員間のチームワークも良く、職員の定着とより良いサービスに繋がっている。また、ユニット間、並びに法人の他施設との人事交流により職員の資質向上が図られている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 中の郷
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全員がみる連絡帳に掲示してあり、理解と職員間での共有をはかり、実践につなげていけるように努めている。	設立時に作成した理念「安心して暮らしつづけられる家作り」を主題として、他3項目を定めている。利用者が我が家として暮らせることを重点に置き、施設を感じさせないように配慮している。そのため、理念をユニットに掲示することは意識的に避けているが、各種書類を収納するカーデックスの最初に添付して共有しており、家族に送付する広報誌「陽だまり」にも理念を掲載している	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩と買い物、餅つきや納涼祭等でも地域の方との交流をもち、また、ボランティアによる習字、オカリナ、レク等を毎月行う事でさらに交流を深めている。	法人が自治会に加入し、防災訓練に職員が参加している。また地域の、どんと焼きに参加している。毎年法人が納涼祭を開催し、昨年からは事業所としても餅つきを行い、地域住民の参加が得られるようになった。散歩の際、住民から声をかけてもらい、野菜をもらったりしている。法人の他事業所では、学校との交流をしているが、事業所としては行っていない。定期的に、書道とオカリナ演奏でボランティアが来訪している他、行事の際には、フラダンス、日本舞踊、影絵、琴演奏等でボランティアが来訪している。法人として、地域と防災協定を締結している。	法人の方針のもと、事業所の立地状況の中で地域との交流に努力し、事業所の餅つきにも地域住民の方の参加が得られるようになりました。今後、自治会との連携をより深め、地域の方に事業所の状況を理解し、事業所運営に一層の協力が得られるような取り組みと、認知症への理解や協力が得られるような取り組みを継続していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的な買い物や外出、イベント等で、支援をみて頂く事で発信し、また、運営推進会議を通し理解をして頂けるように努めている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での報告を通し、意見などは話し合い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は、2か月ごとに定期的開催している。出席者は、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所関係者である。事業所の行事、活動報告、自治会からの連絡事項の報告後、参加者と意見交換を行っている。外部評価の結果も報告している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村との協力関係を築けるよう日頃から連絡をとり、勉強会や研修会にも積極的に参加するように努めている。</p>	<p>市緑区高齢者政策課とは、運営推進会議の議事録提出、介護申請等を通じて連携している。「さがみはら・ふれあいハートポイント事業」の協力事業所となっている。管理者が立上げに努力した相模原市グループホーム連絡会に加入し、情報交換している。市「認知症高齢者・障害者等徘徊SOSネットワークシステム」に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が組織され、月ごとにユニット目標と個人目標掲げて実践している。	身体拘束排除の方針は、運営規定等に明記し契約時に説明している。身体拘束委員会を毎月開催し研修を行っている。新人職員は、法人での研修も受けている。今年から「ちょっと待っててを言わない宣言」など、毎月ユニットで目標や職員の個人目標を掲げて全体会議で宣言をして、その成果を報告するようになった。玄関、ユニット入口は、夜間を除き施錠していない。エレベーターは、暗証番号が必要である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	専門知識の向上や意識の向上の研修や勉強会を行い、防止に繋げていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学び職員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退所時の窓口を管理者とし利用者や家族に説明を行い十分に理解し、安心して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会や家族会等で意見を伺える機会を設け、ユニット会議等で共有し、運営に反映できるように努めている。	利用者・家族の意見や意向は、来所時に聴き取る他、運営推進会議や家族懇談会で聴いている。家族懇談会は、年2回開催され、活動報告後、ユニットに分かれて家族と職員が話し合いを行っている。要望により、法人内の他施設で行われる洋服の出張販売に行ったり、毎月、職員が担当利用者の様子を手書きの文書で伝え、隔月に「陽だまり」を家族に送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同会議や日常でも職員の意見や提案を話し合う機会を設け、反映していけるように努めている。	管理者は、職員の意見や要望を毎月の合同会議、ユニット会議、日常業務の中で聴きとっている。職員は、連絡帳に意見や要望を記入している。管理者は、常勤職員の目標管理シートや業務管理シートをもとに年に2回面談している。非常勤職員の面談も定期的に行っている。職員からの要望により、浴室やトイレの手すりを増設した。職員の要望をよく聞き、勤務体制に柔軟な配慮を行っていることから職員の定着が図られ勤務しやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員は、目標管理シートや業務管理シートを作成し上司との面談を行う事で向上をめざし、非常勤職員も定期的に面談を行うことで、向上を目指せるようサポート体制が整っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ、個々のレベルにあった研修への参加を促し、また毎月の全体会議や合同会議で研修が行われ働きながらのスキルアップが図られている。また、資格取得サポートや資格補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に相模原市内のグループホームの部会があり、他施設と事例を持ち合い検討しケア技術や知識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いをくみ取れるように常に耳を傾け寄り添い、言いやすい雰囲気を作るように努めて、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事、不安や要望に耳を傾け、一つ一つを解決できるよう協力し、よい関係づくりが築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族が望まれる事、その時に必要な事を見極められるよう、面談や会話の中から探り解決できるような方向性を共に考えていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での各場面を利用者とともにに行う事で関係性を築いている。 (洗濯たたみ、食事の支度、掃除等)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時に近況報告、今後の支援についてご家族と共に考え、本人を家族と職員がともに支えていく関係を築いていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊ができる支援に努めている。また、なじみのものなどを持参していただき落ち着ける居住空間を作れるように努めている。	利用者が希望する美容院、帰郷、墓参り等は、家族にお願いして対応している。法人のケアハウスから入居した利用者にケアハウスの知人が来訪した場合、場所を提供している。知人、近所の方の面会も家族の了解を得て対応している。電話の取次ぎを行い、手紙の投函に同行して関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を職員も把握し、その時々に応じた支援をする様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	久寿会の特養に移られた利用者は機会がある度に関わりをもつ事がある。退居後も訪問して頂けるような関係性を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様々な場面で自己決定の機会を大切にし、本人の想いや希望に応えられる様に努めている。	入居時のアセスメントや日常の会話等から生活歴、好み、要望を把握し職員間で共有している。意思の疎通が困難な方には、表情や反応を見て判断したり、家族から情報を得ている。要望により江ノ島水族館や宮が瀬ダムに行った。その際、工房で藍染の体験を楽しんだが、希望により次回は行燈を作りに行く予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境等を本人や家族に話を聞いたりしたものを個人ファイルとして作成、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化ある為 職員間の情報交換、観察、記録で全職員が把握できるように務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や想いを受けながら、家族と話し合い担当者会議で検討し、より良いケアプランに繋げている。	入居時のアセスメントにより、本人の状況を把握し暫定期間を経て生活援助計画を作成している。計画の実施状況は、カードックスの生活援助計画の項目・番号と対応させてケース記録に記録している。実施記録と「できることシート」で現状を把握し、担当者会議で話し合い「見直しシート」を用いて計画の見直しを行っている。計画の見直しは、3か月または状況により随時行っている。また必要の都度、医師の助言を得て計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の情報や気づきに関しては連絡帳、毎日の申し送り、ケース記録に残し職員間で情報を共有しプラン検討時に反映し、実践に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や都度のニーズに応じ、その時々で柔軟に対応出来るように努めている。 (家族受診がお願いできない時代理受診や個別の買い物等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、外食等との関わりで楽しみや活気がえられるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、適切な医療を受診出来るよう家族対応、または、月2回の提携病院の往診で健康管理を計っている。	協力医療機関の往診は、各ユニット月2回ある。訪問看護は、毎週来訪し健康チェックを行っている。歯科医師は、毎週希望者の診療を行っている。今までのかかりつけ医を継続している利用者は7名で、受診は家族が対応している。その際の状況は家族から聞き取ってケース記録に記入し、職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が実施されており、看護師と情報を共有し利用者の日常で気になる事などを相談し連携をはかっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院やそれぞれのかかりつけ医へのスムーズな連携を目指し、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の話し合いや終末期の文書の説明や施設方針を共有し、かかりつけ医とも情報を共有し、取り組んでいる。	法人の看取り介護指針がある。法人のマニュアルをもとに今年、事業所独自のマニュアルを作成した。利用者の重度化が進行した場合、看取り介護の説明書により方針を利用者、家族に説明し、要望があれば依頼書および看取り介護承諾書を受け取っている。これまでに6件の看取り事例がある。法人の研修のほかに看取り委員会を設置し独自の研修を実施している。看取り後、職員にアンケートを取り、問題解決のための研修を実施している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習や訓練、合同会議での勉強会や研修参加により、知識や技術の向上に努めている。また、夜間には、オンコール体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、昼間、夜間両想定で訓練が行われている。また消防マニュアルもある。また、災害対策委員会も整い、勉強会や災害備品在庫チェックを行っている。	定期的に年3回、夜間想定訓練を含め避難訓練を実施している。法人と自治会が防災協定を締結し災害時に住民の受け入れ等、相互に協力し合うようになっている。事業所の近くに消防署があり、また災害時に他の施設から応援が得られる状況にある。災害備蓄は、法人全体の備蓄保管庫に施設ごとに区分して保管し、事業所内にも水、ビスケット、缶詰等の食品、備品を保管している。法人とは、別に災害対策委員会を設置し研修会を実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳や尊重、個人情報の取り扱い等は常に意識し、全職員で徹底を図っている。 (身体拘束委員会の勉強会で学べる機会を設けている)	身体拘束委員会の中で研修を行い、スピーチロックなど日々のケアで気がついたことは、職員同士で注意しあうようにしている。人前で排泄誘導の声掛けしないようにしている。調査時は、居室にノックしてから入室していることを確認した。個人情報を含む書類は、施錠できる書庫に保管している。パソコンは、各自の暗証番号を設定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で個人個人に合わせ、希望を言えたり、自己決定の機会を多くし、その人らしい生活を送って頂ける支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者の状態を職員と把握共有して、業務優先にならないように注意し、その人らしく過ごして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望や好み等により身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査行っている。毎日の食材の買い物、料理、味見、味付け、盛り付け、後片付けなど個々の力に合わせ、楽しみなが行う様に努めている。	各ユニットの担当者が1週間分の献立を作り、食材は、毎日利用者と買い物に行っている。近所の農家から野菜をもらったり、夏季には菜園でとれた野菜を活用している。献立は、利用者の好みを聴いて、バランスに配慮し季節感を考えて作成しており、法人の栄養士の指導を受けている。利用者は、野菜の皮むき、配膳、下膳等を手伝っている。陶器の食器を使用し、茶碗、箸等は利用者個人の物を使用している。ランチョンマットを使い、食事を楽しく演出している。職員は、同席し、介助をしながら一緒に食事をしている。外食は、定期的実施し、行事食もその都度、提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は個別に記録されている。職員も共に食べており個々の嗜好や状態も把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立者は各自で、一人で行えない方は朝夕に支援行われている。毎週水曜日に歯科回診あり定期的に口腔ケア行われ清潔保持を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録や状態の情報共有により、個々の排泄パターンの把握に努め、状況に応じた支援を行なうように考えている。	排泄管理が必要な方は、排泄管理表で排泄パターンを把握し声掛けをし、トイレ誘導をしている。オムツ使用からリハビリパンツになったり、リハビリパンツから布パンツに改善した事例もある。トイレは2か所あり、車いす対応や、折戸の扉のトイレもある。トイレの表示は分かりやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防や対応を理解をした献立も考えられており、起床時の飲水、毎日の体操や散歩も意識を持ち取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望されるタイミングで入浴出来ている。2日に1回程の割合だが希望される方は毎日でも入れる環境にある。 逆に入浴を拒む方は無理には行わず3日に1回でも気分良く入浴して頂けるように対応している。また、入浴剤を多種準備し、リラックス効果も得ている	原則として週2～3回としているが、希望により回数、時間には柔軟に対応している。入浴を好まない方は、時間を変えたり、職員を変えたり、「息子さんが入ってもらいたいと言っていた。」と声掛けをするなど工夫している。利用者ごとのタオル、剃刀、シャンプーなども区分して棚に収納している。浴槽は、大きく、足を延ばせる。希望により入浴剤を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には使い慣れた物や大切にされていた物が置かれており、プライベートスペースとして意識し扱われており、ご希望時に過ごして頂ける様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋が挟まれており職員は常に確認出来るようになっている。薬の変更や状態の変化などは連絡ノートとケース記録、申し送りにて情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で好まれている事や張りあいなどを感じ楽しく生活に参加して頂けるように支援行われている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には個別対応で対応し、また本人希望を聞き家族と協力しながら外出を楽しむ支援を行っている。外泊や外出も家族協力にて行われている。また、ユニット外出も行っている。	天気の良い日は、毎日散歩に出かけ、買い物に同行することもある。調査時にも、車イスの方と一緒に事業所周辺の畑の野菜を見たり、散歩を楽しんでいた。ユニット合同並びにユニット独自の行事が定期的に企画され、花見、こいのぼり見学、紫陽花見学、紅葉狩りに行っている。また希望者には個別対応で、江ノ島水族館、宮が瀬ダムなどへ出かけた。山々を見渡せる広い屋上で外気浴や七夕、花火見物、月見をしたり、家庭菜園で楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方はお金を所持し買い物などに出かける支援も行っている。管理の難しい方はご家族と連絡を取り対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を出す等の要望がある時は都度対応の支援行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で居心地の良い落ち着いた空間作りを工夫している。 また、季節に合った物を飾ったり、ベランダにガーデニングをして楽しんで頂けるようにしている。	3ユニットとも ほぼ同じレイアウトであるが、飾りや観葉植物の配置によりそれぞれの雰囲気を感じさせるものとなっている。施設的な雰囲気を極力避け、家庭的な温かみを感じられるように配慮している。紙でなく布の手作りカレンダーや毛糸編みのソファカバーなど居心地の良い空間づくりを大切にしている。2階には、各ユニットが共用するスペースがあり、風船バレーをしたり、面会時に使用したりしている。合同の行事は、1階デイサービスのフロアで実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で談話したりテレビを見て楽しめたり、一人用や二人用のソファも数カ所に配置し、安らげる空間作りとして、大小の観葉植物もインテリアとして置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、家で使っていた家具や物を置き馴染の部屋に近づけ安心できる空間作りを工夫している。安全な家具配置にも心掛けている。	居室は、採光がよく明るい。空調設備、照明器具、クローゼット、カーテン、洗面台が設置されている。利用者は、ベッド、タンスや椅子などを持ち込み、写真や趣味の品を飾り、居心地いい部屋としている。居室入口は、好みののれんを目印として、木で作られた名札と手作りの布のクリスマスリースを飾り、入居者らしさを感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が出来る限り自立し行って頂ける様に常に危険物収納ドアの施錠や置き場所に気配りし、利用者が自由に行動できる環境作りに取り組んでいる。		

事業所名	グループホーム 中の郷
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の情報として必ず目を通す、ケース記録の一番初めのページに書いてあり、いつでも見られ共有し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の納涼祭や普段から行っている散歩や買い物等を通し、地域の方と交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営者会議を通じ、地域の方へ理解していただけるようになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行い、そこで得た意見を参考にし、サービス向上にいかしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携を維持し、協力を得られるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解し実践行なえている。また、毎日意識を向上する為に目標を読み、行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行ったり、時事や問題になった事の問題性を職員同士で考え共有し、常に注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を持ち、そこで学んだことを全職員で共有し、活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に説明を行い、理解して頂いている。また、家族懇談会などの場で不安や疑問点について尋ね、対応し納得の頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を出しやすいように意見箱の設置、家族会、面会時に意見等を伺えるように機会を設け、運営に反映できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う合同会議やユニット会議にて職員の意見や提案等を聞き、反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議への参加等を通し、職員個々との理解を深めることで、向上新を持って取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や施設内研修への参加・受ける機会を増やし、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市内のグループホーム部会での事例検討会や勉強会を通じて、向上できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の状況や環境の変化を見極め、その方に寄り添ったサービスを行うことで、信頼関係を築き、安心して暮らせるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に困っていることや不安な事などの意見等を伺えるように機会を設け、状況に応じたサービスを心掛け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを汲み取り、状況にあった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での色々な生活の場面を共に共有する事で、対等な関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族としての思いに共感することで、利用者と家族の絆を大切に、支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、外出や外泊等を行ったり、面会がしやすいよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の場面で、共に出来ること（料理等の手伝い、趣味やレクリエーション等）で関わりを出来るに行い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟やユニット特養に移動された方は、行事や面会にいたり、繋がりもあり入居時同様の支援を継続しやすいような関係を維持できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望を把握し、連絡ノートや会議等の場において検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活履歴等の情報を記入して頂いている。また、日々の生活の会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や会議の場において、職員同士での情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や担当者会議、連絡ノート等で個々のケアの要点を共有し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノートを活用し、職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や必要に応じ、プラン変更を行ったりと柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活の場面の散歩や買い物、ボランティア等の関わりの中で、安心して豊かなくらしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけの医や施設と連携している病院への受診と、本人及び家族等の希望を大切にし、適切に医療を受けられるよう支援おこなっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎週の訪問看護にて疑問、情報の共有により看護職員と連携を図り、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療でき、早期退院を目指して医療関係者との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族、施設側とで、話し合いの場を持ち、文章の説明を行い、方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防所の救命講習への参加、勉強会等にて共有を行い、取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の実施、火災発生時のマニュアルの熟知等により全職員に徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修において、学んだり、日々の生活やケアの中で職員同士での注意等を行い、対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の会話の中から思いを汲み取ったり、意思や自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気候、その人の気持ち等を考慮し、本人に聞き、希望にそった支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や行儀の際に化粧をしたり、その人の要望にあった支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行ったり、日々の食事での観察、いろいろな食事を提供したりし、食事を楽しんで頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	都度の食事の摂取量や状態を観察し、食事量や水分量を記録に残し、一人一人にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の声掛けや支援を行い、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立にむけた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に便秘予防の食材を使用したり、水分を摂って頂くようにしたりし取り組んでいる。また、毎日の体操を行って頂けるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その方の要望に応じて、朝や昼と時間問わず個々に応じた入浴の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や状態に合わせて、快適に安心して眠って頂けるように、温度調整を行ったり等の環境整備に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の服薬内容の共有に努め、その人の状態に合わせて随時体調の変化等の記録の徹底に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の手伝いやレクリエーション、外食や外出などの場で、気分転換を図れるように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出や買い物を行い、また、ひびの会話から本人の希望を把握し出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方へは、希望により対応おこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には都度、対応おこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員同士での話し合いを行い、また、レイアウト担当を決め、季節感を出すように行なっている。また、多くの植物を育て、季節感を感じられるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にテレビを見て過ごせるソファを設置したり、いつでも自室にて過ごして頂けるように取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から使用していた馴染みの家具や物を持ってきて頂き、本人が快適に過ごして頂けるように取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の日々の状態の把握に努め、職員同士での共有を図り、その人が出来ることを活かした支援を行っている。		

事業所名	グループホーム中の郷
ユニット名	ゆり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケース記録の一番最初のページに入っており、職員はいつでも見れるようになっている。また会議などで話し合い共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物で地域の人とあいさつを交わしたり、納涼祭や餅つきなどにも参加して頂いている。地域の行事のどんと焼きなどにも参加し交流をされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ理解して頂けるよう心掛けている。また、悩み事や相談事など支援出来る体制作りを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議や話し合いなどを通じて、意見を参考にしてサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域高齢者支援センターの職員と連絡を取りながら協力関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が月1回会議を行ない各ユニットの状況などを話し合いを行ない勉強会やユニットでの目標、個人目標を掲げ身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は常日頃から、注意を払い入浴時など身体チェックをおこなっている。また、研修や勉強会を行ない知識を身に付け防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会があり職員は理解し支援出来る体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、入居時や退去時の時に説明を行ない、利用者や家族の不安や疑問点など納得や理解出来るまで十分な話し合いを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されておりいつでも意見や要望が書けるようになっている。職員は家族の面会時などに要望や意見を聞くように努め反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、会議などでの意見や提案を聞く機会がある。また、個別でも意見や提案を聞いて下さり反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや業務管理シートを作成し、職員の向上心や取り組みたい事が明確になっている。管理者とも面談もありやる気に繋がる環境になっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修へ参加したり、毎月合同会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的にグループホーム部会があり市内のグループホームと事例検討会や意見の交換などを行っている。また、希望者には各グループホームの見学などの調整などの連携も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事を家族や本人に聞きながら安心して生活出来る環境作りに努め、職員は常に利用者に耳を傾けながら信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な家族をお預かりするという事を職員はしっかりと心に受け止め、家族からの不安や要望、困っている事に耳を傾け信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、何を必要としているのかを見極め、安心した生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族のように思い支え、理解し安心して生活出来るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との時間を大切にしながら支えていく環境作りを行っており、家族参加の行事を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、職員は家族から情報などを聞き、支援出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションが取れるようにフロアに共同スペースがあり思い思い過ごされている。また職員は、レクリエーションやお手伝いを通して支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟に移動された利用者は、面会に行ったり行事などで会う機会が多くあり本人、家族とのつながりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の想いを大切にし、職員は毎日の生活の中で希望や意向などを聞き実現出来るように努めている。また家族などの協力を得ながら考えて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに本人や家族に生活歴や暮らし方などを聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はミーティングや日々の話し合いで情報を共有し、利用者一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや担当者会議、ケース記録と参考にケアのあり方を共有し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳を活用し、職員は情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてプランの変更を行ったり対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域のいきいきサロンへの参加など楽しみながら暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の月2回の往診や家族希望のかかりつけ医の受診など適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、相談や情報の交換など行ない連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは情報の共有を図り、安心して治療が出来き、早期での退院が出来るように信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族、施設側とで話し合いの場を持ち、十分説明をしながら方針を共有し書面の交換を行ない支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会があり、知識や技術の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練が行われている。また消防のマニュアルもあり職員は避難方法や手順も身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内で研修があり勉強している。また日々の生活の中で職員同士注意等行ないながら徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で本人の思いや希望を聞いたりし、本人の意思や自己決定出来る声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容院に出掛けたりと利用者の希望に沿った支援を行っている。毎日の中では一緒に洋服を選んだり髪をセットしたり行事などはお化粧をしたりとおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の要望を聞いたり、食事作りや後片付けを行ったりとしている。月1回外出食に出掛けたり昼食などはパン屋のパンを買いに行ったりと楽しみのある食事作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一目で分かるように記録に残している。また一人ひとりに応じた食事量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は各自で行っている。一人で行えない方は支援にて行なわれており必要に応じて巡回歯科にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助が必要な方は排泄チェック表で把握し、さりげなく声掛けをし誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な食材を献立に取り入れている。また、起床時の飲水や乳製品など個々に応じて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し声掛けを行っている。希望があれば毎日でも入浴が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせお昼寝を取り入れたり、就寝前の環境を整えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり処方箋がユニット内に置いてあり、職員は副作用など理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食やドライブに出掛けたり、希望によって買い物へ出かけたりしている。また、レクリエーションを行ったり散歩に出掛けたりと気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常的に行っている。みんなで行きたい場所など話し合い家族の協力を得ながら紅葉狩りに山中湖へ出かけたりしている。また、個々では家族に話実現出来る様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者はお金を所持しており、買い物など支援している。お金の管理が出来ない利用者はこちらで預かったり立て替えし買い物が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を掛けに行ったり、手紙のやり取りを行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や鉢植えを行なったり、冬にはコタツを出したりと季節感を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置き好きな場所で過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのある家具を取り入れたりし家族と相談しながら居心地よい居室作りを心かけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケース記録や連絡帳、ヒヤリハットを活用し安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム中の郷

作成日 平成27年 2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域交流は頻繁に行なっているが、近隣が住宅化しつつあることから交流の機会が増えるよう努力必要。	地域交流を積極的に行なう。	地域に向け勉強会や催しを企画しホームに入りやすい情報を流す。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。